

令和7年度 次世代モビリティ(MAYU)活用方法検証事業 結果報告

【主旨】(次世代モビリティ活用実証事業共通)

低速電動コミュニティバス「MAYU」の活用により、従来の公共交通ネットワークを補完するとともに、車両を活用した外出やコミュニケーションの機会創出による「心身の健康増進」や「環境負荷の低減」、「移動に関する社会課題の解決」を図るため、地域の実情に応じた交通手段の確保と活用方法について検証を行う。

【活用方法検証事業】◆令和6年度からの継続事業

1 概要

- ・ 低速電動コミュニティバス「MAYU」の乗車体験機会を創出することで、環境にやさしいライフスタイルや、スローライフを心がける「ゆっくりズムのまちづくり」を推進する。
- ・ 市内の公共的団体等が実施者となり、高齢者サロンや校外学習など、1日～数日程度のMAYUを活用した実証運行を行う。
- ・ 車両レンタル料の一部として、実施者(利用団体)に1回(1日)9,000円の自己負担をいただく。

2 募集方法等

- ・ 実証実験のため、社会福祉協議会に協力団体選定の依頼をするとともに、委託先であるゆっくりズム研究所のホームページにおいて募集。最大運行回数(6回)に達するまで随時受付。
- ・ 実施者は運行内容や参加人数等の実施計画を記した申請書をゆっくりズム研究所に提出。ゆっくりズム研究所及び桐生市にて内容を審査の上決定。

3 実施内容等

①最大運行回数

- ・ 最大6回/6日間(1日1台、8時間)

②実施結果

- ・ 運行回数：6回(5団体)
- ・ 利用者数：88人(1日平均17.6人)
- ・ 所感(「良い」の割合)：使い勝手80%、楽しさ80%、満足度100%

4 検証結果

《利用事例の分類》

- ・ 利用事例を「福祉(移動支援)型」「体験乗車型」「社会実験型」に分類し集計したところ、福祉型4件、体験乗車型1件、社会実験型0件であった。
- ・ 福祉型はこれまで群馬大学や社会福祉協議会で取り組んできた内容で、外出機会の創出による利用者同士のコミュニケーションや健康増進の効果があつた。
- ・ 体験乗車型は小学生・高校生の利用が中心で、若年層の利用に繋がる点があつた。
- ・ テイクアウト可能な飲食店への立ち寄りなど、新しい切り口の運行も見られた。
- ・ 社会実験型は令和7年度の実績なし。令和6年度に実施した桐生商業高校の活用事例(授業の一環でMAYUの活用方法を考え実践する運行)が有意義であつたので、このような事例が増えることが望ましい。
- ・ 2日分の枠を使用し実施した事例では、川内町と小平の里の間を往復したが、回送と合わせ約32kmの行程となり、移動時間やドライバーの負担を考慮すると厳しい運行であつた。MAYUの1行程での走行距離は約25kmがボーダーラインとなることがあつた。

《自己負担金》

- ・ 利用者（利用団体）からはいずれも金額に対し負担を感じる様子はなかった。
- ・ 自己負担を求めるべき活用方法と、求めない活用方法の両面で、利用事例等の状況を通し検証していく。

《今後の展開》

- ・ 1日貸し切りでの本運行事業は、利用者の高い満足度と毎回ほぼ満員という実績を達成した。これにより、本事業における MAYU の高いニーズと効果が検証され、自己負担に対する認識も確認できた。
- ・ 自己負担の受容度が高まることで費用対効果の向上が認められるため、今後も次世代モビリティの普及推進と、公共交通利用に対する行動変容に資する事業として広く周知し、継続的に実施する。
- ・ 令和8年度は最大運行回数を20回/日に増枠。令和8年5月1日（金）より随時募集開始。区長連絡協議会や広報きりゅう等にて周知。